市民意見反映のための取り組みについて

概要版

岐阜県 可児市議会

可児市（か　に）の紹介

人口　99,360人

世帯　44,634世帯

令和７年 ４月１日現在

世界一のバラ園

ぎふワールド・ローズガーデン

美濃桃山陶の聖地

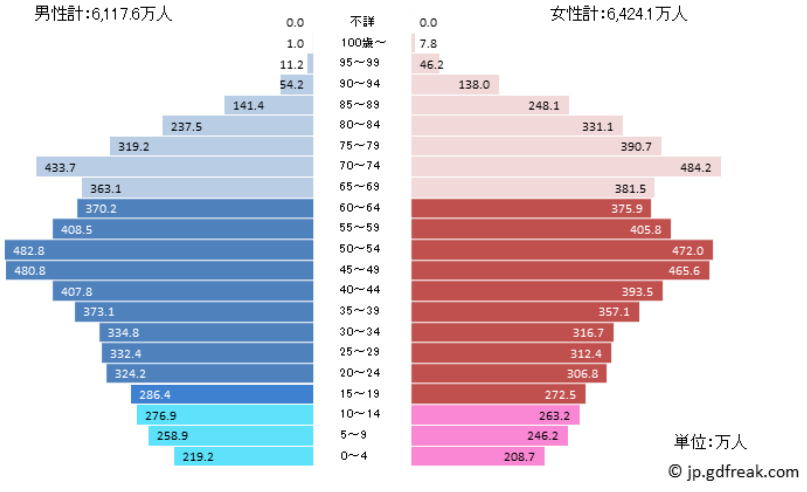
信長･秀吉時代の茶の湯文化を牽引

「志野呼継ぎ茶碗」

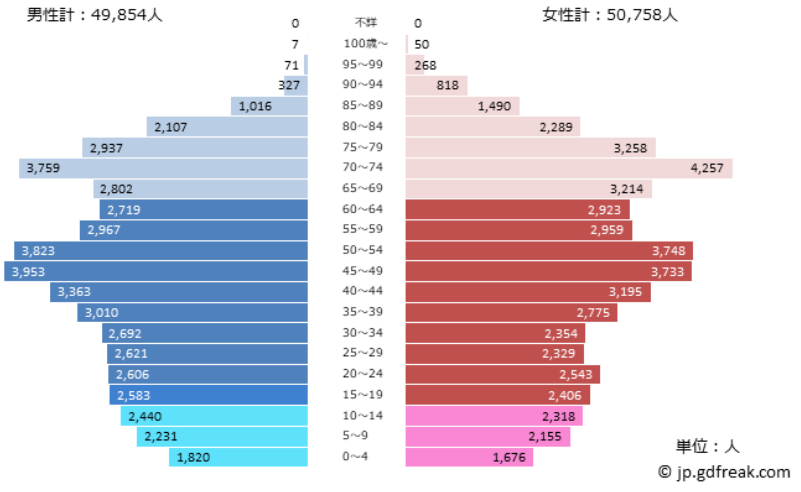
森蘭丸の所縁の地

森蘭丸の甲冑・国史跡美濃金山城跡

人口構成から見える課題



全国の人口構成 （2023年1月）



可児市の人口構成 （2023年1月）

① 90歳代、80歳代と比較し70歳代の割合が多い

→ 加速度的に高齢化が進んでいる

② 20歳代後半、30歳代前半の女性の割合が少ない

→ 結婚を機に市外に移転している

③ 10歳以下の人口割合が少ない

→ 少子化、人口減少へ

課題に対し、議会のすべきことは

- 高齢化社会への対応は

  1970年以降、名古屋のベットタウンとして団塊世代を中心に人口が増加。その世代が75歳を超えてきたが、今のままでは・・・

- 若い世代に魅力あるまちづくり

  これまでは山間地からの移住や、外国籍市民により人口維持。
  進学、就職、結婚を機に若者の都市部への流出は続いている。

- 地域の課題か、市全体の課題か

  市の成り立ちから、市街地、団地、農業集落など、地域により課題が違う。限られた予算の中で選択をどのようにしていくのか。

市民意見を集約、しっかりと議論し、市政に反映。

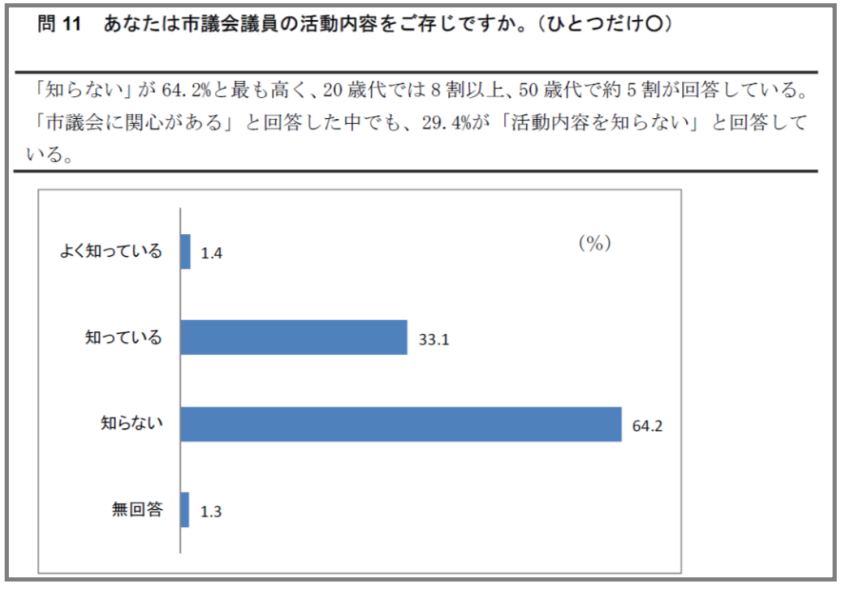
市民は議会をどうみているのか

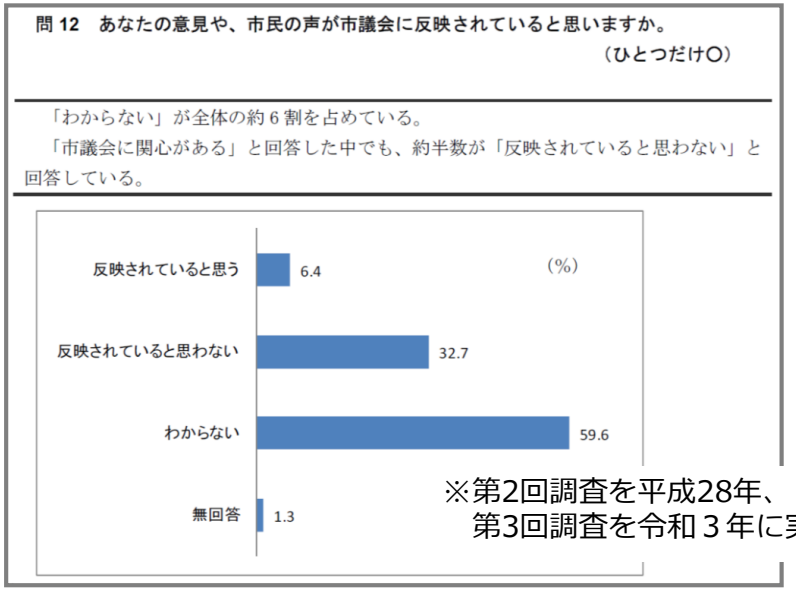
市民アンケートの実施（平成23年2月）

目的：市議会の現状を調査するため
対象：20歳以上の市民2,000人
主体：議会基本条例調査研究プロジェクトチーム（有志議員）
予算：政務調査費（全議員が支出）
作業：質問選定から封入･郵送、集計･分析に至るまで全て議員が実施
結果：

- 回収数は810件、**回収率は40.6%**
- 市議会に関心がない　36.7%
- **議員の活動内容を知らない　64.2%**
- **市民の声が市議会に反映されていると感じている　6.4%**

⇒厳しい現状と議会改革を進める必要性を再認識



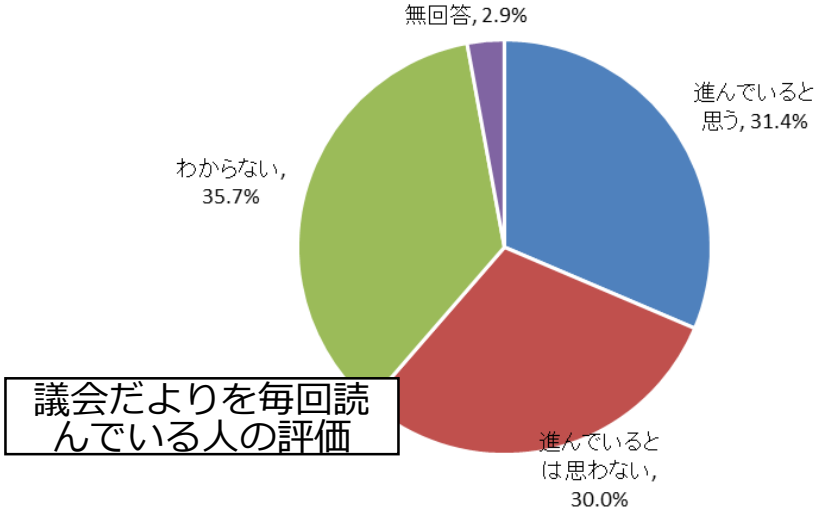


※第2回調査を平成28年、
第3回調査を令和３年に実施

アンケートの継続実施

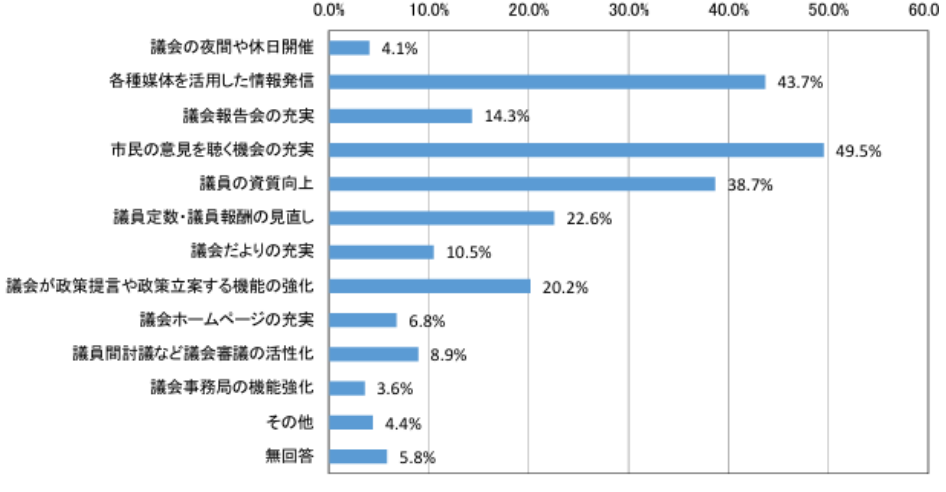
可児市議会

【問】議会改革は進んでいると思うか （第2回：平成28年1月実施 ）



議会改革の進捗について「進んでいる」との回答が10.8%であったのに対し、議会だよりを「毎回読んでいる」人では31.4%が「進んでいる」と回答している。

【問】議会改革に何が必要と思うか （第3回：令和3年3月実施 ）



議会が取り組むべき課題は、依然として「意見交換会の充実」「議員資質向上」と回答した人が多い。
「各種媒体を利用した情報発信」と回答した人が17.7%から43.7%と大幅に増加している。

アンケートからみる市民意識動向

- アンケート回収率は 40.6%(H23) → 40.2%(H28) → 42.0%(R3) とほぼ横ばい
- 議会への関心度は「少し関心がある」を含め 61%(H23) → 49.2%(H28) → 40.2%(R3)と減少傾向
- 議会改革を進めるための課題として「市民の意見を聴く機会の充実」が最も多い
- 「議員の資質向上」 「議員定数・議員報酬の見直し」「政策提言や政策立案機能の強化」を望む意見も多い
- 情報発信に関し、議会だよりや議会ホームページの充実に加え、「各種媒体を活用した情報発信」を望む声が増加している

「議会の見える化」の推進

① 市民に分かりやすい議論の場
② 政策提言型の議会
③ 市民意見を聴く広聴機能の充実
④ 各種媒体を利用した広報の展開

市民にとってわかりやすい議論

本会議における一般質問および議案質疑は、論点や争点を明確にし、執行機関や傍聴者にわかりやすくするため、下記の取り組みを実施している。

● **一般質問・議案質疑**

一問一答方式と一括質問一括答弁方式の選択方式（再質問からは一問一答）

→通告時に議員が選択することとしている。大項目（議案）ごとの質問項目の多寡などで使い分けられるようにしている。

● **反問権**

議員の質疑･質問に対し、執行機関が議長又は委員長の許可でその根拠や理由を確認したり、論点を明確にするために反問の権利を保障している。

● **自由討議**

本会議および委員会で自由討議ができるよう規定している。

● **議場モニター（スクリーン）**

議場にモニターを設置し、資料データを投影しながら一般質問ができる。

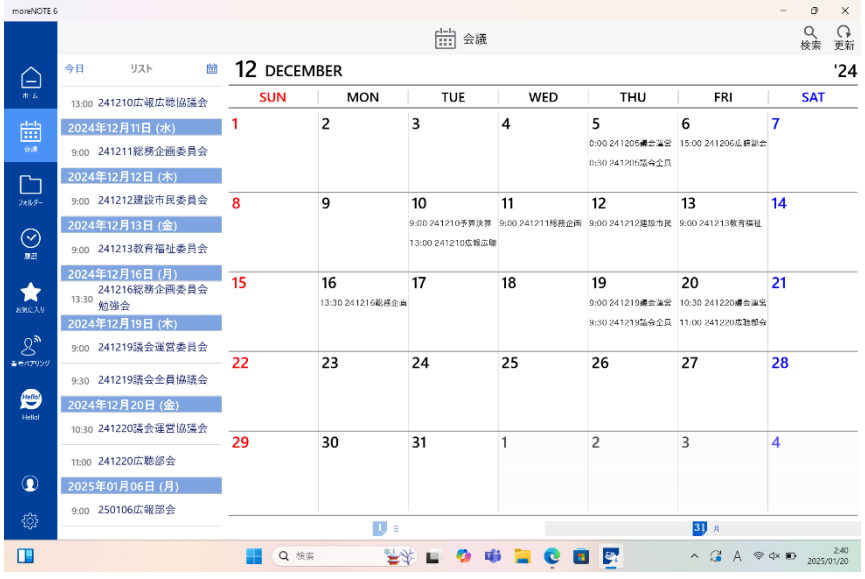
ICTを活用した議論の充実

目　的：・議員相互の意見交換のため
・事前調整を活発に行うため
・資料の配付・内容確認の円滑化のため

令和5年度より議員一人1台タブレットを支給し、会議資料はデータ資料を基本とする。

ツール：議会掲示板（議会HPを活用）、及びペーパーレス会議システム

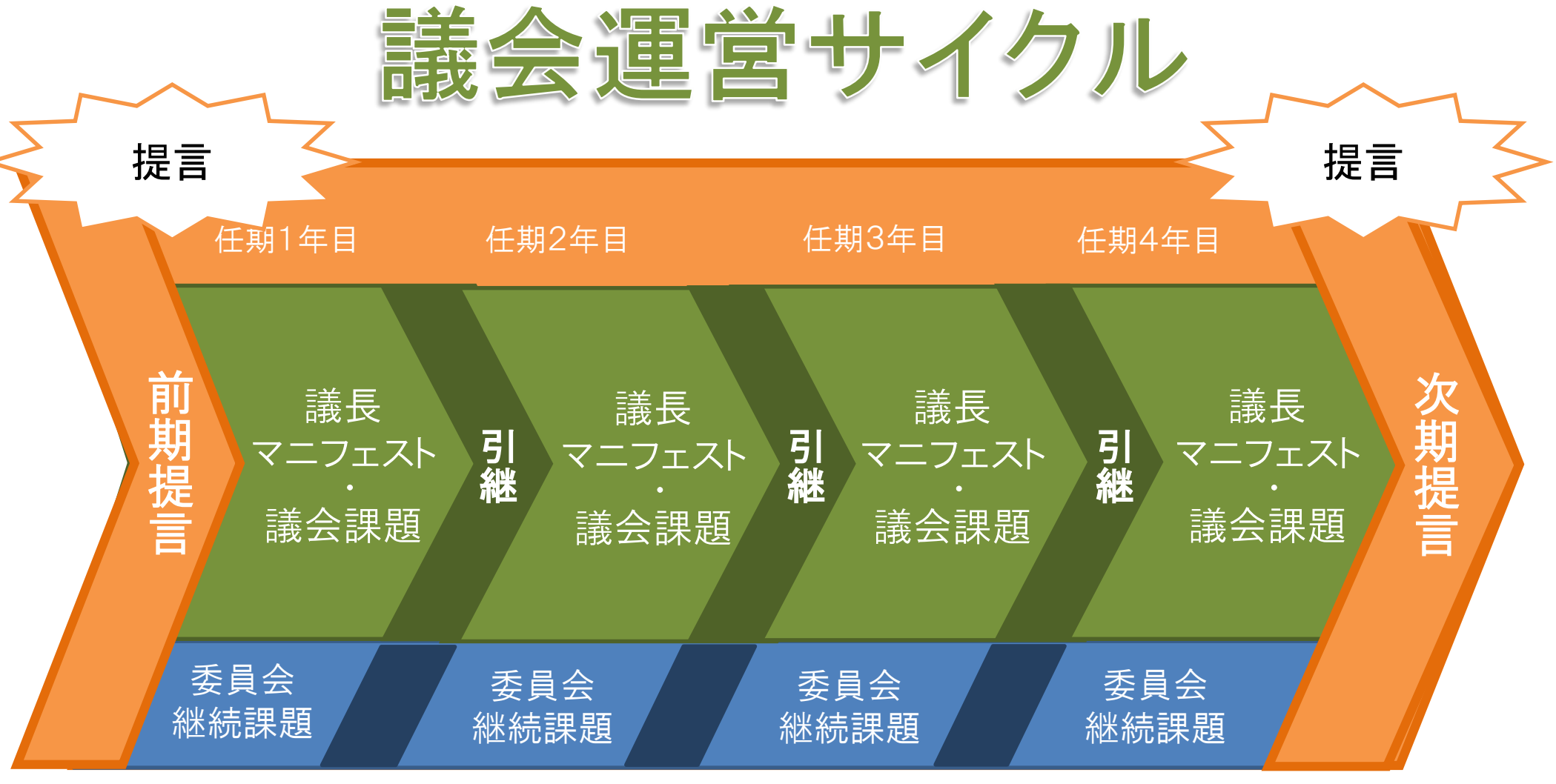
効　果：・大量の資料もインターネット上で速やかに配付・**資料の事前確認を行う**ことができた。
・**委員相互の意見交換や認識を深めてから委員会に臨む**ことができた。



令和6年度、新しい議会会議システムを導入

切れ目のない議会運営

４つの議会サイクル　その１



議長引き継ぎ事項（R６.6）

可児市議会

議長職における引き継ぎ事項について

1. 議会におけるDX化の環境が整いつつあるなか、導入したICT機器・ソフトなどを議員自身が十分に活用できるよう、議員研修を開催するなど、議会全体でスキルアップを図ること。また、下半期には、議場改修も予定されており、その改修の進捗状況を注視すること。

2. 議会広聴機能の更なる強化を図るため、議会報告会や各種団体との懇談会及び高校生議会など、市民からの意見を聴取する多様な機会を積極的に設け、内容についても充実を図ること。

3. 議会広報広聴機能強化のため、地域団体が開催する行事・イベントに参画するなど「アウトリーチ事業」への取組み強化を進めている。この事業の継続、並びに企画のブラッシュアップアップを図ること。

4. 各常任委員会活動の成果として、政策提言へとつなげられるよう、調査研究を積極的に行えるように努めること。

5. 多様な人材が議会に参画ができるよう、環境整備を図ると共に、議会広報においては、多世代に情報が伝わるようSNSなどの様々な媒体を活用した情報発信をすること。

令和６年６月28日

可児市議会議長　澤野　伸

各常任委員会においても引継事項をとりまとめ、政策的課題について継続して所管事務調査が行われるようにしている。

正副議長立候補制度

- **立候補手続き**
  - 所定用紙にて議会運営委員会へ届出　※正副議長への重複立候補はしない
- **立候補者演説会**
  - 8月臨時会で**立候補者による所信表明演説**を実施
  - 立候補演説10分以内、質疑1人5分以内で実施
  - ケーブルテレビにて**公開**
- **投票行為**
  - 単記無記名による投票行為
  - 原則として立候補者氏名を記入（法的には候補者以外の氏名を記入しても有効）

引き継ぎ事項に対してどうしていくのか

立候補者の演説

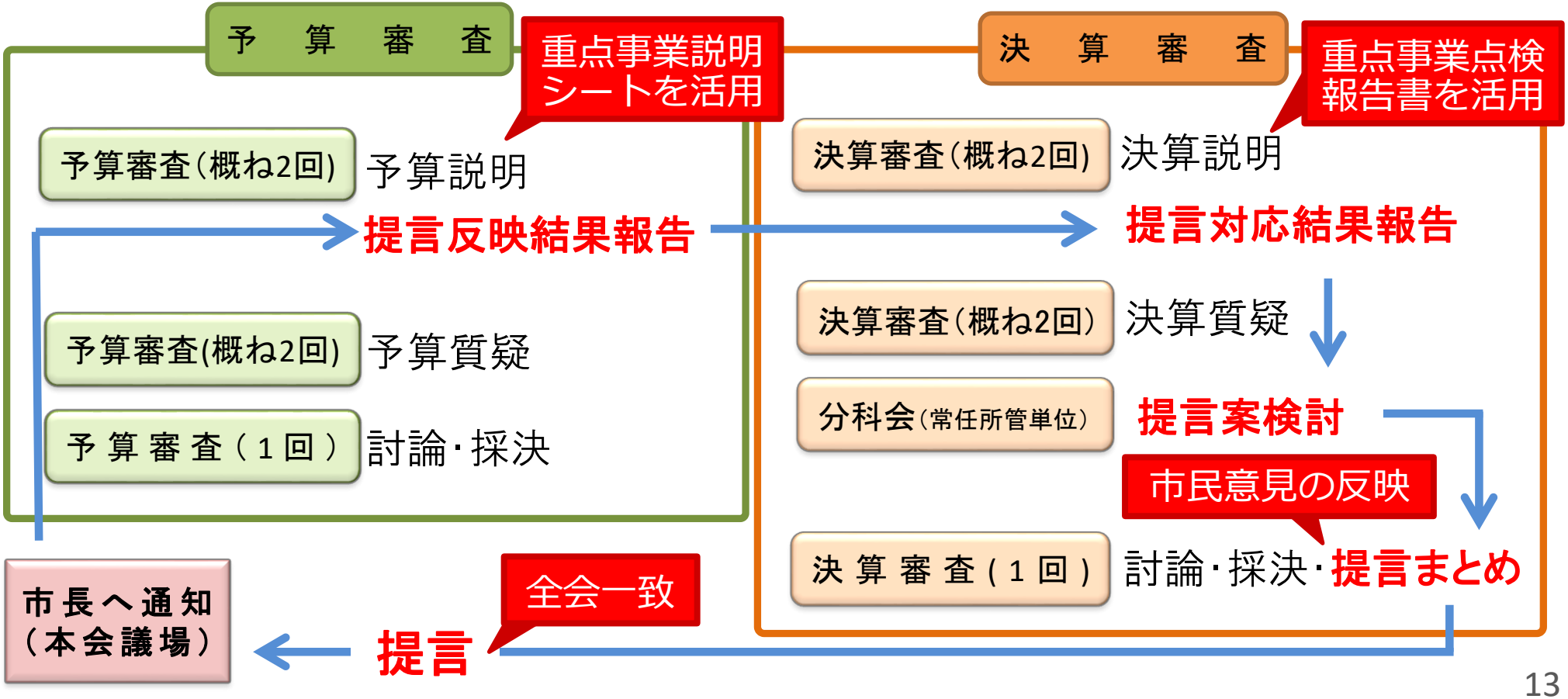
投票の様子

決算審査から提言へ

４つの議会サイクル　その２

予算決算審査サイクル

予算決算委員会：議員20人で構成(議長･監査委員を除く)



重点事業点検報告書

重点方針	高齢者の安気づくり		所属	福祉部			高齢福祉課
総合計画	1 － 2 － 1/2		総合戦略	4 － (2) － ①/②			
事業名	包括的支援事業・任意事業費 【介護保険特別会計（保険事業勤定）】		決算額	132,220,859 円			
			款項目	保3	2	1	決算事務報告書頁 123
対象年度に目指す事業の成果	住み慣れた場において、必要な医療や介護が受けられ安心して生活できる地域包括ケアシステムの構築を進めます。						

実施結果

○包括的支援事業
・地域包括支援センターの受持ち地域を見直し、南部、西部地域包括支援センターを、南部、帷子、土田地域包括支援センターとし、美山地区を可児市地域包括支援センターから北部地域包括支援センターの受け持ちとしました。これにより、6つの地域包括支援センターで、高齢者にかかる総合相談、権利擁護業務、包括的継続的ケアマネジメントを行いました。（運営委託料：70,067,276円）
　総合相談実績：4,895件、高齢者虐待：5件、包括的継続的ケアマネジメント相談：659件、権利擁護講演会：1回、介護支援専門員研修：3回
○地域包括ケアシステム推進事業
・市全域に支え合い活動を推進するため、第1層協議体「あんしんづくりサポート委員会」を10回開催しました。また、委員会の円滑実施のためのプロジェクトチーム会を12回実施しました。支え合い活動推進目的に、市民向けフォーラムを実施しました。
・在宅医療・介護連携推進プロジェクトチームを構成し、研修会と交流会を行い、顔の見える関係づくりを行いました。また、多職種間の情報連携を円滑に行うための共有シートを作成し、H30年4月より運用を開始します。
・地域における生活支援の体制づくりのため、地域福祉懇話会（地域ケア推進会議）を全14地域で実施しました。
・地域包括ケアシステム若葉台モデル地区において、地域ケア会議を4回、勉強会を3回実施し、地域と介護関係者との意見交換・情報共有の場としました
・認知症の方への支援として、地域包括支援センターに認知症地域支援推進員を配置し、認知症カフェ（9会場）、もの忘れ困りごと相談（97回）を開催、認知症ガイドブック、可児市オレンジプランを作成しました。
・認知症初期集中支援チームを設置し、認知症の早期診断・早期対応の支援を行いました。
・地域ケア個別会議を9回（17事例）、介護予防マネジメント支援会議を5回（19事例）を実施し、高齢者の住み慣れた住まいでの生活の支援とともに、地域の課題の共有を図りました。
○任意事業
・介護用品購入助成事業　給付額：27,738,155円（H28年度：23,115,401円）
　おむつ：936件（H28年度：707件）、防水シーツ：349件（H28年度：287件）、ねまき：307件（H28年度：230件）、肌着：317件（H28年度：254件）
・安否確認・配食サービス事業　月平均利用者数：166件（H28年度：164件）、年間給食回食数：54,085食（H28年度：44,365食）
・認知症サポーター養成講座を32回開催し、2,008人のサポーターを養成しました。

翌年度の課題への取り組み・改善方法

○包括的支援事業
・帷子、土田地域包括支援センターを配置し、高齢者人口に応じた職員配置を行いました。
○地域包括ケアシステム推進事業
・在宅医療介護連携のプロジェクトチーム会議を立上げ、専門職同士の顔のみえる関係づくりを行いました。
・市内14地区で、地域福祉懇話会を開催しました。
○任意事業
・介護用品購入助成事業について、制度の持続性を高めるための検討を行いましたが、改正には至っていないため今後も継続して検討を行います。

指標名		対象年度の目標値に対する達成状況	27年度 目標値 / 結果	28年度 目標値 / 結果	29年度 目標値 / 結果	30年度 目標値 / 結果	31年度 目標値 / 結果	32年度 目標値 / 結果
指標①	認知症サポーター登録件数	A	3,500人 / 3,843人	4,500人 / 5,137人	6,500人 / 7,145人	7,400人 /	8,200人 /	9,000人 /
指標②			/	/	/	/	/	/
参考指標	地域包括支援センターの相談件数（実数）		3,384件（1,752件）	3,837件（1,932件）	4,895件（1,969人）			

年度		28年度決算	29年度決算	30年度予算
事業費（千円）		121,114	132,221	165,390
財源内訳	国支出金	44,588	49,796	62,839
	県支出金	22,294	24,898	31,419
	地方債			
	その他	54,232	57,527	71,132
	一般財源			

翌年度の課題（問題点）
・帷子地域包括支援センターの事務所をとうのう病院内に設置しているため、担当地域内への事務所移転が必要です。
・介護用品購入助成事業について、利用者数と助成額が増加しています。

翌年度の対策（改善点）
・地域の福祉課題や住民同士が地域の情報を共有する場として、地域福祉懇話会を各地区で継続的に開催します。
・要介護者等の医療と介護をつなぐ入院時の情報共有シートを作成し、H30年4月に運用開始しました。今後、退院時の情報共有シートについて、統一様式の作成を検討します。

今後の取組ポイント
・帷子地域包括支援センターの事務所を担当地域内に移転するため、適切な場所の確保と委託先との調整等を行います。
・介護用品購入助成事業について、安定的で公平な制度となるよう事業内容を継続的に検討します。
・H29年7月にサポーター養成目標数の見直しを行い、H32年度末までに、9,000人（人口の約9%）としました。その目標を達成するために、引き続き、企業や学校等での講座が開催できるよう関係者への働き掛けを行います。
・在宅医療介護連携推進PT会議において、市民へ在宅で受けられる医療・介護サービスの周知を行います。また、会議で医療と介護の切れ目のない提供体制を検討し、地域の実情にあったサービスを検討します。

- 可児市市政経営計画の４つの重点方針に基づく、重点事業ごとにまとめている
- 実施した内容を明示
- 目標値及び結果を年度ごとに
- 複数年にわたる予算執行状況
- 今後の課題など

決算議会日程　（令和6年8月21日～9月25日）

可児市議会

20日	火			次第書打合せ(13:00)
21日	水	9:00	本会議(提案・議案付託)	
		本会議終了後	予算決算委員会(補正予算)	
		13:00	予算決算委員会(決算・総務企画所管)	
22日	木	9:00	予算決算委員会(決算・建設市民所管、教育福祉所管)	
23日	金	9:00	予算決算委員会(予備日)	
24日	土	休会		
25日	日	〃		
26日	月	〃		
27日	火	〃	決算質疑締切(正午)	
28日	水	〃	議案質疑、委員会質疑締切(正午)	
29日	木	〃		
30日	金	〃		
31日	土	〃		
9月1日	日	〃		防災訓練
2日	月	〃		次第書打合せ(13:00)
3日	火	9:00	本会議(一般質問)	※全ての一般質問終了後、議案質疑 及び議案付託を行います。
		本会議終了後	広報部会	
4日	水	9:00	本会議(一般質問)	
		本会議終了後	広聴部会	
5日	木	9:00	本会議(一般質問予備日)	
6日	金	9:00	予算決算委員会(総務企画所管・市民文化部・建設部)	
7日	土	休会		
8日	日	〃		
9日	月	9:00	予算決算委員会(水道部・教育福祉所管)	
10日	火	9:00	総務企画委員会	
		委員会終了後	予算決算委員会分科会(総務企画所管)	
11日	水	9:00	建設市民委員会	
		委員会終了後	予算決算委員会分科会(建設市民所管)	
12日	木	9:00	教育福祉委員会	
		委員会終了後	予算決算委員会分科会(教育福祉所管)	
13日	金	休会		
14日	土	〃		
15日	日	〃		
16日	月	〃		敬老の日
17日	火	9:00	予算決算委員会(討論・採決・提言とりまとめ)	

執行部から説明
議選監査から報告

決算に係る質疑の締切

正副委員長にて質疑精査・選定

質疑応答

分科会毎に提言案を協議

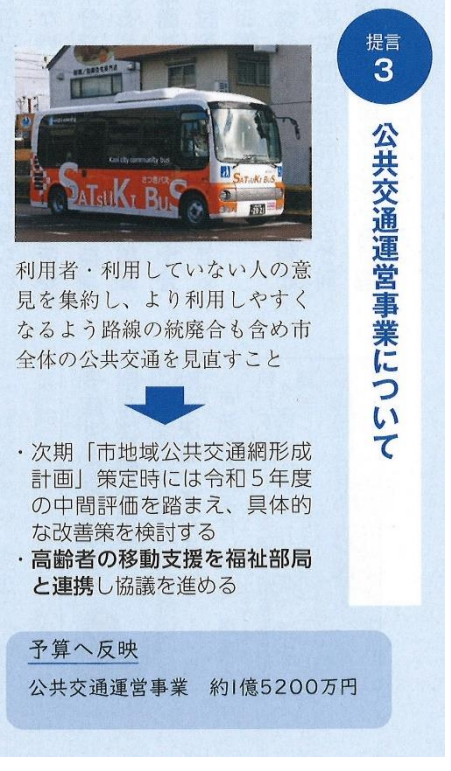
提言とりまとめ

政策提言・提案の取り組み

▼決算審査による予算編成への提言

決算審査において予算決算委員会で所管ごとに分科会を開催し、提言案を検討・協議。分科会の各提言案について改めて予算決算委員会で自由討議を行った上、全会一致で提言内容を決定、市長へ提出。
次年度予算編成にどう反映されたのか報告を受ける。

＜参考＞令和５年度決算に基づく議会からの提言に対し、令和６年度予算で反映した内容の報告



委員会調査事項から提言へ

委員会代表質問

報告会などで頂いた意見を
委員会で調査研究を重ね、
議員個人ではなく委員会として
質問する。

可児市議会基本条例
（常任委員会の活動）
第11条　常任委員会は、所管事務調査及び政策提案を積極的に実施し、その機能を十分発揮しなければならない。
2　常任委員会を代表する議員は、本会議において議長の許可を得て所管事務に関する質問をすることができる。
【H29.4.1施行】

委員会代表質問のルール

事前通告制。一般質問の前に実施。時間は答弁も含め60分。

- **質問項目は**

各議員の一般質問や委員会の所管事務事項

- **全会一致で決定**

緊急性、必要性を勘案し、委員会の全会一致で行う

- **質問の準備**

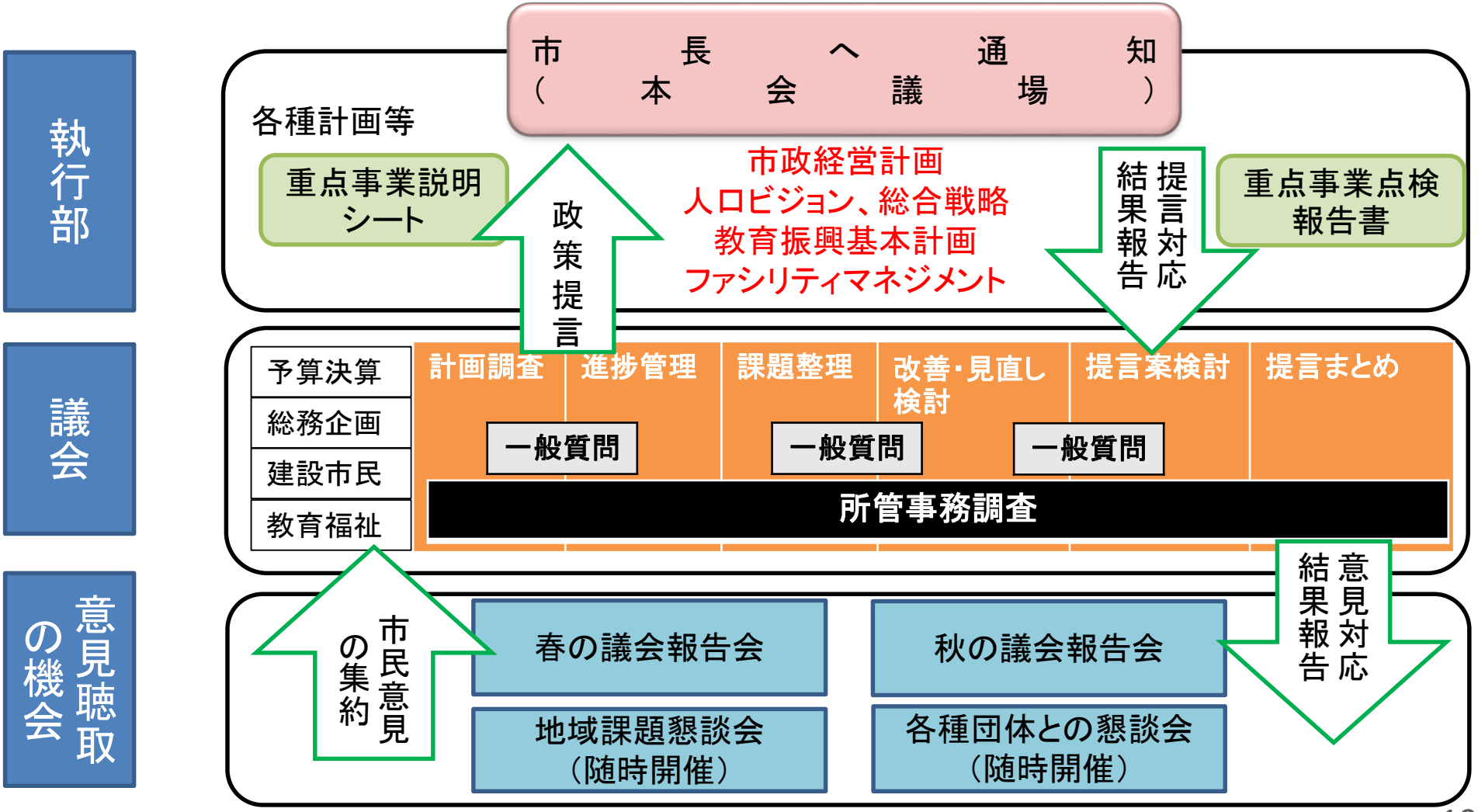
質問者、論点、想定問答を検討、承認を得る

委員会において、十分に調査研究を行うこと

市民意見を聴く機会の充実

４つの議会サイクル　その３

意見聴取・反映サイクル



議会報告会の実施

基本条例で毎年開催を規定。

開催状況
　開催日：令和６年２月10日
　会　場：本会議場及び委員会室

　第一部
　　予算決算サイクルの説明

　第二部
　　テーマ毎に分かれ意見交換
　　「子育て支援の充実を」
　　「公共交通を考える」
　　「鳥獣被害の現状と対策は」

議会報告会のあゆみ

当初

- 第1回は平成24年2月
- スクール形式で報告
- 意見を言う市民は一部

コロナ禍

- 完全オンラインで実施
- ズームのブレイクアウトルームを利用
- 市民が興味あるテーマを選び参加
- 一部議員も自宅からオンライン参加

現在

- 4から6人でグループになり意見交換
- 議員はファシリテーターと記録係
- テーマを設け、全員から意見を聴く
- 最後に会場全体で意見を共有
- 頂いた意見はHPで公開

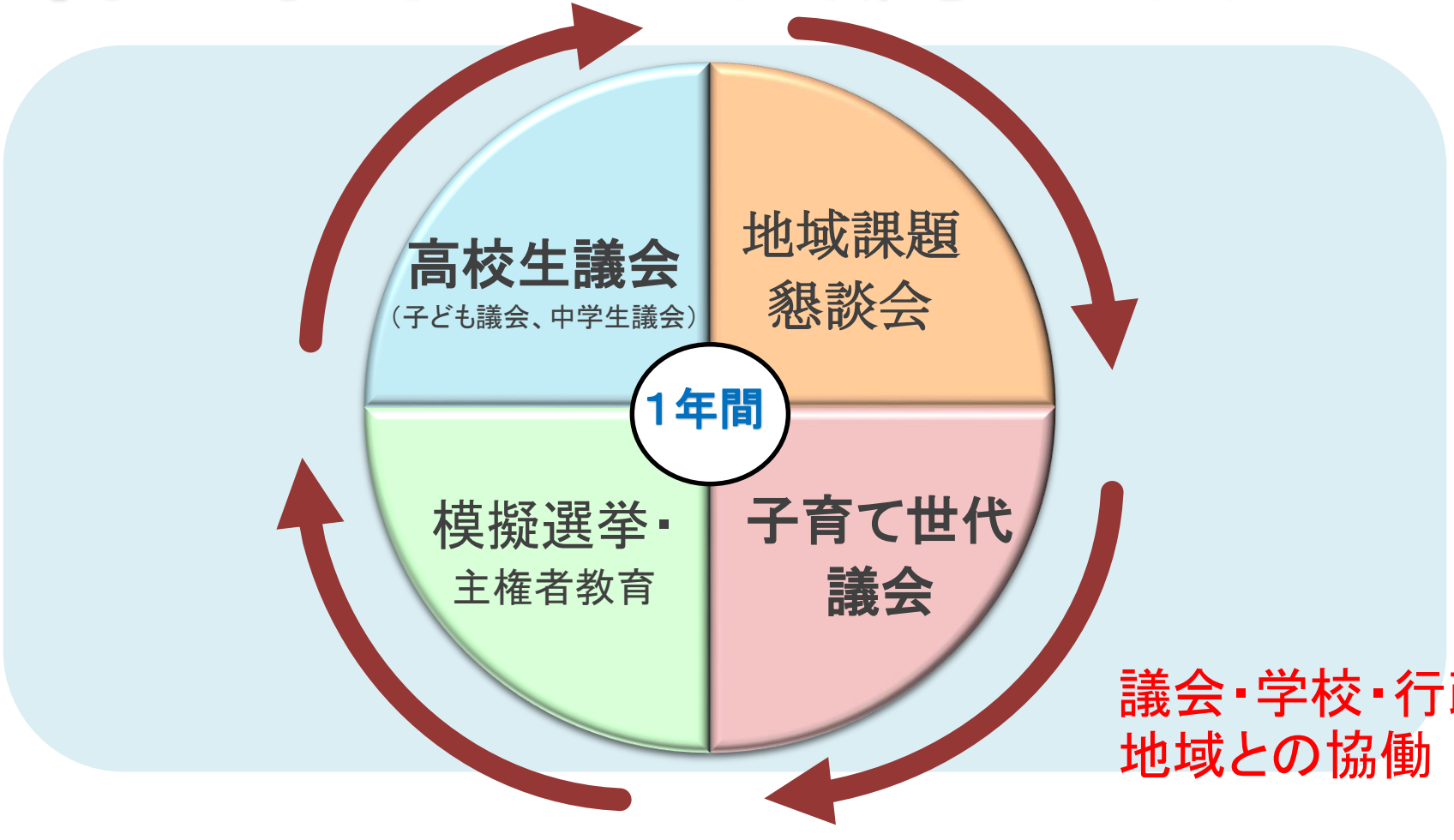
意見聴取体系

	区別	会議名	対象	担当議員	主な会場	内容
議会報告会	地区別	地区懇談会	地区	地区議員他	地区センター	・各地域での課題について意見交換
		予算・決算報告会	全市民	全議員		・予算及び決算の報告、意見交換
	課題別	各種団体懇談会	各種団体	委員会	市役所・福祉センター・アーラ等	・各種団体との意見交換、情報共有
		地域課題懇談会	多世代	全議員		・専門家による講話、意見交流
	世代別	高校生議会	高校生	希望者	議場	・高校生による成果発表、意見交換
		小中学生議会	小学生 中学生			・小中学生による模擬議会
		子育て世代議会	子育て世代			・子育て世代との意見交換
	その他	出前意見交換会	来場者		イベント会場	・イベント会場にてPR、意見聴取

若者世代へのアプローチ

４つの議会サイクル　その４

若い世代との交流サイクル



議会・学校・行政・
地域との協働

キャリア教育支援としてスタート

可児高等学校が求める**大人と関わる機会**と議会が求める若い世代の意見を聴取する機会を設ける方向性が合致したこと。

キャリア教育推進のためには、地域で活動する大人と関わる機会とその運営者が必要。

高校

×

基本条例に規定される市民は有権者だけではない。
20歳未満の若い世代との関わる場が必要。

議会

「キャリア教育についての研修会」

目的：平成26年2月10日に開催する高校生議会に先立ち、可児高等学校が実施するキャリア教育について、目的や内容などを把握するため。

時期：平成26年1月15日

講師：可児高等学校教諭 浦崎 太郎 氏

対象：可児市議会議員およびH26.2.10意見交換参加職員（介護専門職）

キャリア教育研修

高校生議会の流れ

１）テーマ設定

可児市における実際の課題、キャリア教育での課題など

２）意見交換

議員や職員など、大人を交えてグループ討議

３）議場発表

グループ討議のまとめを議場で発表

４）意見書を採択

高校生が議会に対し、意見書を採択

探究学習の成果発表を議会と

第11回高校生議会
令和7年3月24日実施

◆可児高等学校　探究学習の成果発表

＜１・２年生による活動報告＞ ※一部抜粋

〇空き家を有効活用できれば、市を活性化をすることができるか

〇子ども食堂の知名度を上げることで、よりよい子育て支援を実現できるか。

＜コアメンバーによる活動報告＞

〇現在の農業課題と、解決策としての農業ロボットの活用

◆探究学習を通じた市への提案

可児高発議第１号
「可児市における生ごみコンポスト支援策に関する意見書」を全員賛成で採択。

議会が行う主権者教育とは

【疑問】なぜ若者の投票率が低いのか？

EX.　生徒会選挙では、
全員が半ば強引に投票

EX.　自分から投票所に
行って投票

⇒積極的に「人を選ぶ」という経験がない

- 選挙の仕方と選び方を体験してほしい

生徒の疑問1　どうやって投票するの？

平成28年３月25日執行

可児高市長選挙選挙公報

（この選挙公報は、候補者から提出された原稿をそのまま掲載したものです。）　可児高校選挙管理委員会

可児市を担う人づくりを推進します!!

角野仁美（かくの ひとみ）21歳

『だれもが住みやすい街づくり』
～可児高校生の目線に立って～

≪教育≫～複合施設を完備した図書館～
1、学習スペース、カフェスペース、販売機能を兼ね備えた図書館への建て替え。
2、エンリッチプロジェクトやインターンシップの拠点整備と推進。

≪交通安全≫～通学時の安全確保～
1、歩行者と自転車が安全に利用できる通学路整備。
2、学校と駅を結ぶ、バス本数の増加。

≪防災≫～大震災にむけて～
1、通学路や橋など通学路の補強。
2、帰宅困難となった場合に備え、学校の備蓄品強化。
3、高校生も災害ボランティア活動が出来る仕組みづくり。

≪観光≫～市内の高校生連携～
1、高校生主体で、花フェス夕記念公園の企画運営参加。
2、可児市観光ルートづくりと、ＰＲ。

やる気の出るスイッチ ON OFF

大雅嶺広（たいが みねひろ）36歳

目指せ！10万人総活躍社会
若者が元気なまち可児！　4つの政策課題　誰もが居場所と出番があるまち可児！

◆交通安全　通学路の安全を最優先！危険な交差点や狭隘道路の改善
可児市版自転車交通小・中・高校生免許制度の創設
◆防災対策　地域防災リーダーの養成　常設型災害ボランティアセンターを開設し、防災啓発と被災地支援活動を支援
◆教　育　保育付き新図書館の建設　大学生主体の学習支援NPO設立
可児駅前子育て支援施設に「学ＶＩＢＡ」をなでしこ開設
◆観　光　SNSを駆使し『可児のいいとこ発見コンテスト』の実施
高齢者と高校生がタッグを組み、体験型観光プログラムを開発

プロフィール
01年　山手幼稚園卒
07年　広見小学校卒
10年　中部中学校卒
13年　可児高校卒(31期)
岐阜大学工学部
16年　就活中！
可児生まれ、可児育ち！
趣味　バスケットボール　天体観測　写真
@KAIphoTOgraph

山口海斗（やまぐち かいと）21歳

若者が可児を変える!

可児高市長選挙の投票日は平成28年３月25日です！

選挙公報

本番さながらの選挙

投票用紙等

選挙ポスター

期日前投票

生徒の疑問2　どうやって選んだらいいの？

グループディスカッション

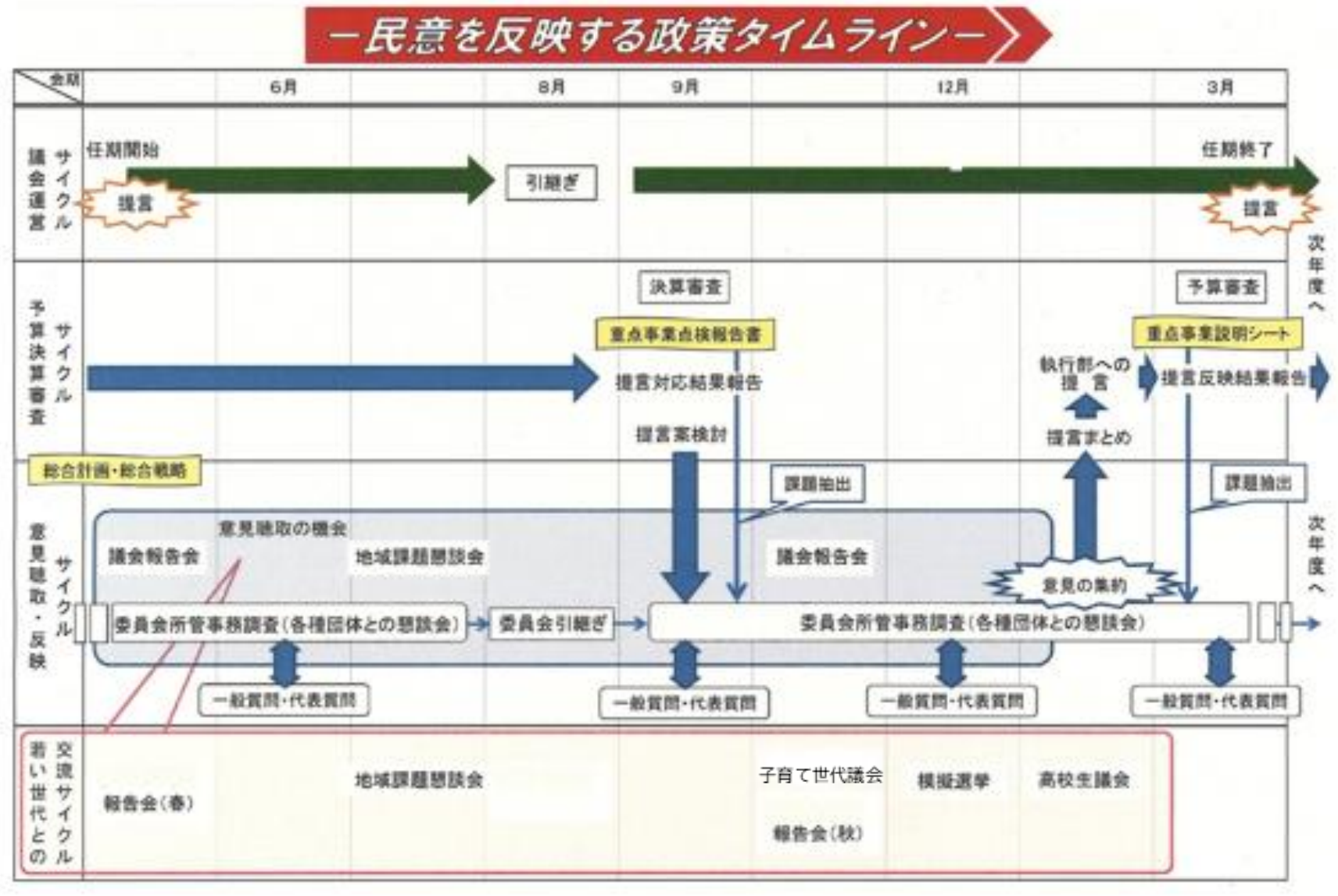
生徒代表による趣旨説明

投票の指標を議員が説明

グループで選挙公約を検証

グループで選挙公約を検証

4つのサイクルアニュアルプラン



情報発信の取り組み

▼議会広報紙（議会だより）
　年４回発行（５月･８月･11月･2月）
　自治会を通して全戸配布

随時見直し、リニューアル
- 活字を大きめ、やや太めの明朝体に
- 写真を多く取り入れる
- 余白を作り、読みやすく
- 裏表紙に地域の写真を掲載
- 議員の取材コーナーを掲載
- **フルカラー化**（H25.5）
　市の広報紙と併せて入札することでコストダウンを図る
- 段組みを6段から4段へ変更
- 表題を「議会のトビラ」へ（H27.5）
- 二次元バーコードでYouTubeへ誘導
- 表紙を一般公募（R4.5～）

広報紙以外の取り組み

▼ホームページ
　議会のホームページ開設（H16.3）
　　議員紹介、議案や議決結果、会議録、
　　議会の取り組みなどを公開
　全面リニューアル（H28.4）
　　広報紙にあわせ「議会のトビラweb」
　　Googleカレンダー…会議日程の公表
　　Facebook　　…タイムリーな情報
　　YouTube　　…動画配信へリンク
　　議会だよりの音声データを掲載

▼YouTube
　本会議、常任委員会（議案等）

▼Instagram
　若い世代への情報発信として投稿開始
　　令和４年11月スタート
　　担当議員でLINEグループをつくり、その場で編集

地元メディア媒体の活用

▼ケーブルテレビ
本会議の生放送
各種告知

議会の制作番組を放送
テレビ番組　10分×2本／年

▼FM放送
15分番組を年６本
各種告知
議長の決意表明
委員会紹介
高校生との対談

広聴機能と広報機能を一つに

２つの特別委員会を廃止し、広聴広報機能を一本化

議会広報特別委員会

・見やすい広報誌作り
・市民への取材
・あらゆる媒体での広報

etc.

議会改革特別委員会

・意見聴取の場を企画、実施
・事業の検証
・ICTの推進

etc.

広報広聴協議会

・議長を除く全議員が参加
・副議長が座長
・広報部会・広聴部会で構成

議運

・検証
・ICTの推進

一方向の関係ではなく、双方向の関係に

今後の課題は　身近で頼れる議会へ

可児市議会

議会への関心度低下

- 「関心がある」と回答 8.9%　（令和３年市民アンケート）
- 市議会選挙投票率 37.57%　（令和5年7月執行）

産業フェアへブース出展

☆議会報告会の2月開催
・市民意見を直接予算審議に

☆アウトリーチで身近な議会
・イベントにブース出展

☆市民フリースピーチの開催

☆議員研修会へ一般市民も参加

市民フリースピーチ開催

概要説明は以上となります。
ご清聴ありがとうございました。